COVID-19に関する影響調査
（報告）

【報告者】
チーム医療推進協議会　　小林　毅
（一般社団法人　日本作業療法士協会）

はじめに

各職種の養成課程では、一昨年度後半からの感染拡大、緊急事態宣言等、さまざまな要因により、学内での授業・実習だけではなく、専門職種にとって重要が学外での実習等の機会が大きく制限されてきた。

特に、昨年度は、年度を通じて学外での実習については制限が大きかったという声も多く、その内容と今後の課題について調査を実施した。

調査は大きく「各職種の養成施設」に対する調査と「個人」に対する調査の2つをgoogleフォーム上で回答できるように準備した。

「各職種の養成施設」に対しては、チーム医療推進協議会（以下、「協議会」）に参加している学協会を通じて養成施設に対して調査協力を依頼した。

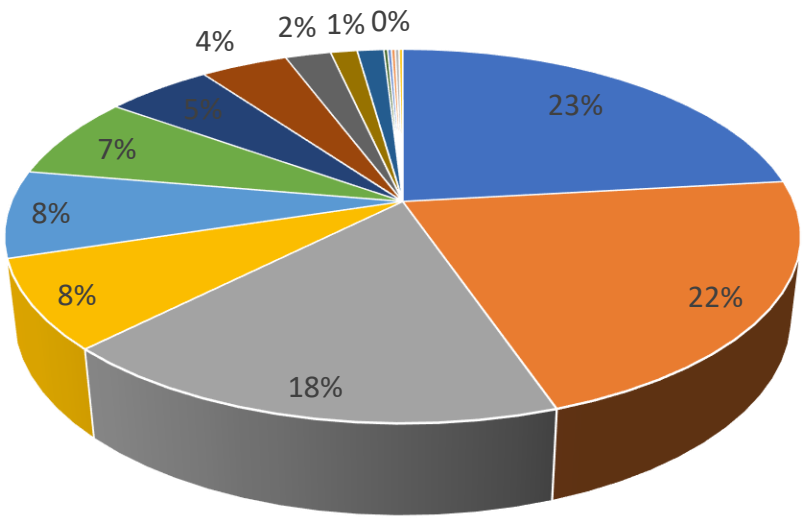
「個人」に対しては、協議会のホームページ上の調査協力のお願いを掲載するとともに、協議会に参加している各学協会のホームページ等にも調査協力を掲載してもらうように依頼した。

回答の期間は、2021年6月25日（金）～7月25（日）までの約1か月間とした。

「各職種の養成施設」に対する調査結果から

全回答数は、546件であった。

養成している職種（課程）についてお答えください。（n=543）

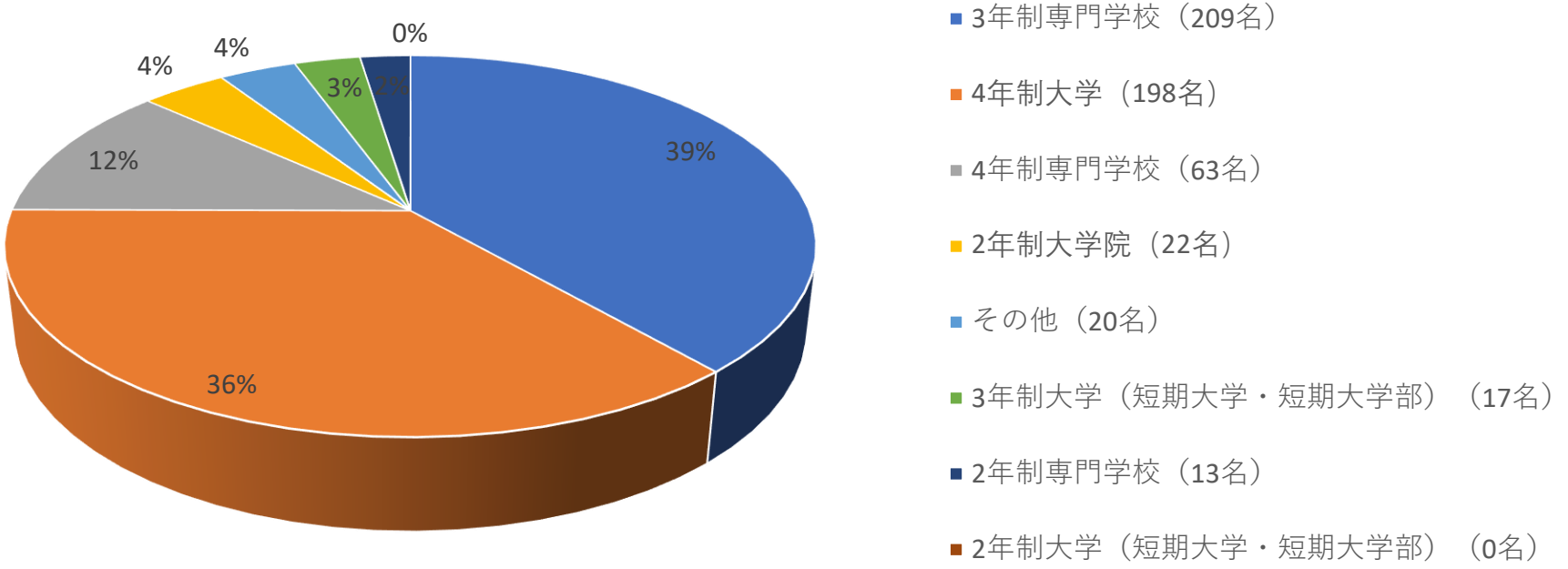


- 歯科衛生士（126名）
- 理学療法士（117名）
- 作業療法士（96名）
- 言語聴覚士（42名）
- 臨床検査技師（41名）
- 診療放射線技師（39名）
- 公認心理師（28名）
- 視能訓練士（23名）
- その他（12名）
- 義肢装具士（7名）
- 救急救命士（7名）
- 看護師（1名）
- 精神保健福祉士（1名）
- 臨床心理士（1名）
- 医師（1名）
- 歯科医師（1名）

○ 医療ソーシャルワーカー、リンパドレナージセラピスト、管理栄養士、診療情報管理士、細胞検査士、薬剤師、保健師からの回答はなかった。

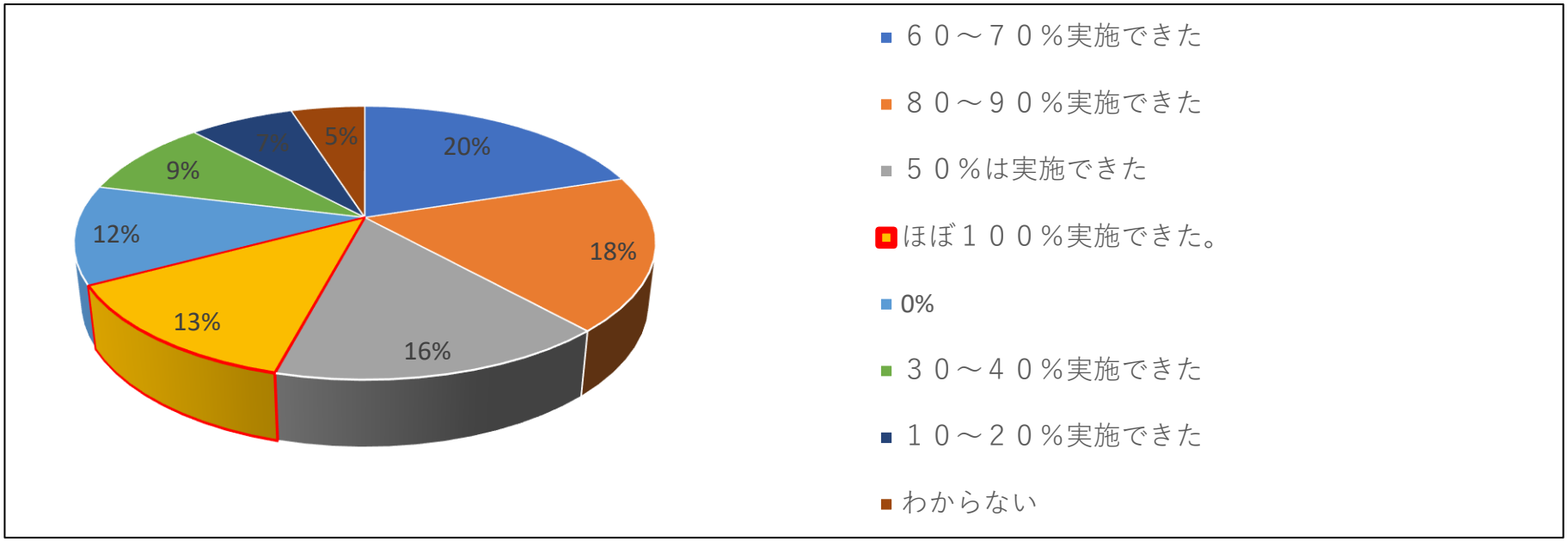
○ その他の回答には、重複する職種の養成課程があるものの他、保育士、柔道整復師があった。

設置の課程の修業年限と種別をお答えください。（n=542）



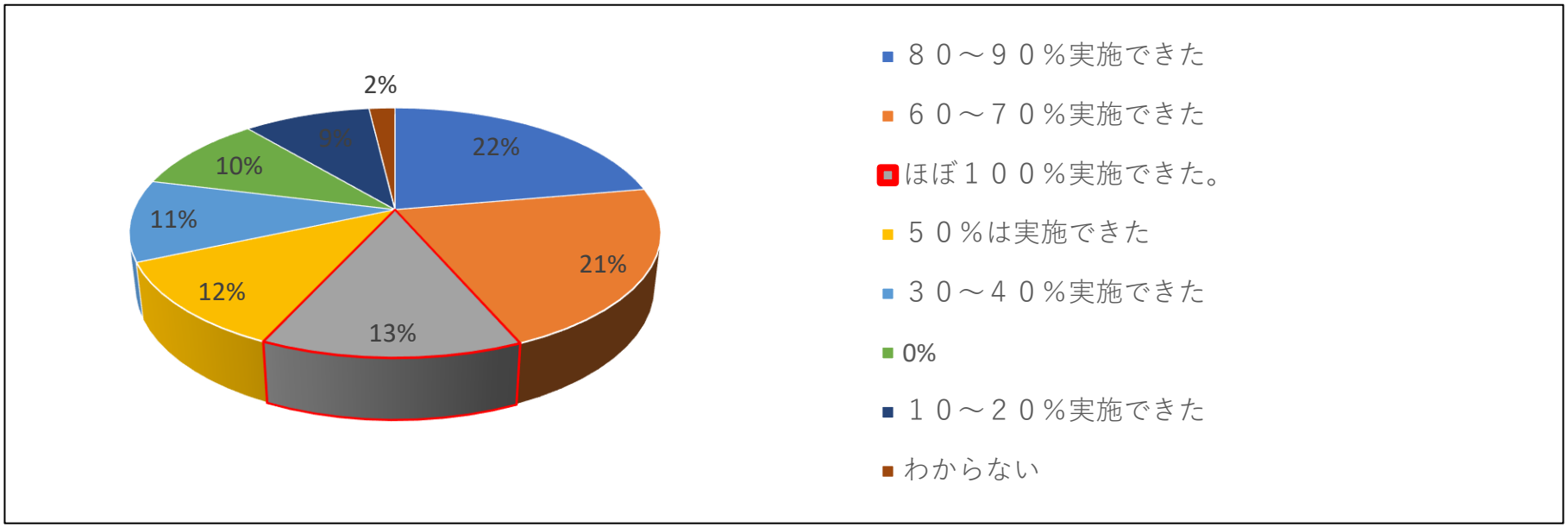
○ その他の回答には、就業年限の異なる養成課程（例えば昼間・夜間など）があった。
○ 公認心理師の養成課程では、4年制の大学（学部）と連動した2年制大学院といった回答があった。

2020（令和２）年度（今年3月）の卒業生は、昨年度1年間に本来実施すべき学外の実習をどの程度実施できましたか。（n=530）



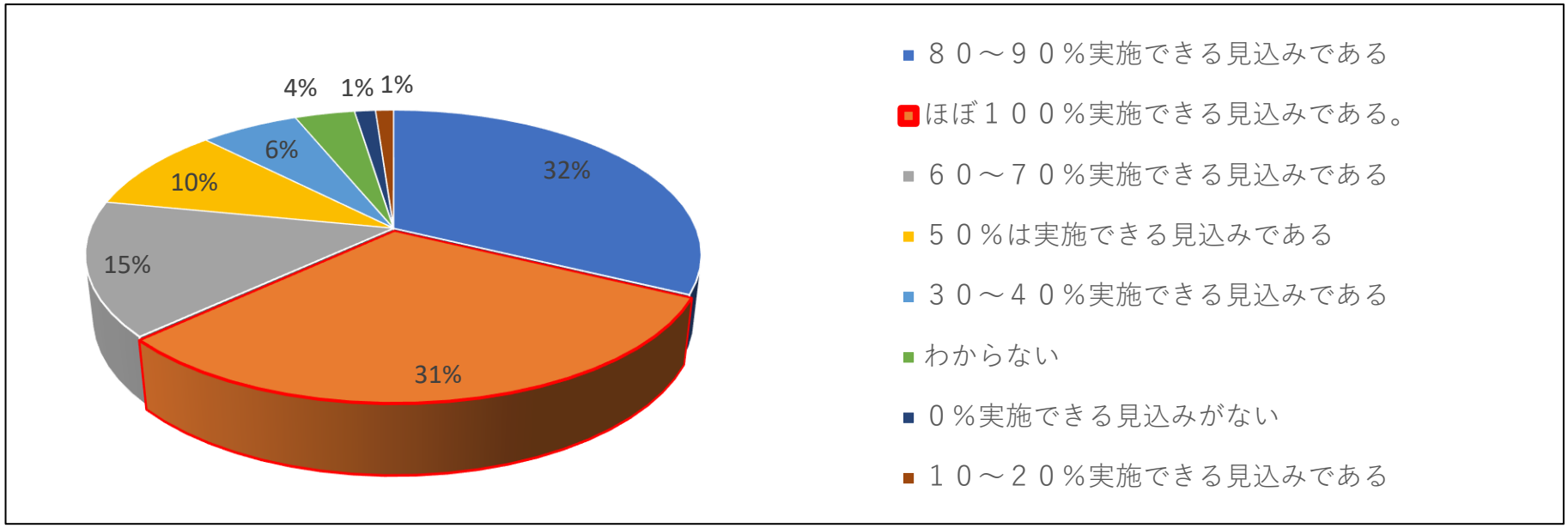
○　ほぼ１００％実施できた。
○　８０～９０％実施できた（学生の８０～９０％もしくは全体の実習期間の８０～９０％は実施できた）
○　６０～７０％実施できた（学生の６０～７０％もしくは全体の実習期間の６０～７０％は実施できた）
○　５０％は実施できた（学生の５０％もしくは全体の実習期間の５０％は実施できた）
○　３０～４０％実施できた（学生の３０～４０％もしくは全体の実習期間の３０～４０％は実施できた）
○　１０～２０％実施できた（学生の１０～２０％もしくは全体の実習期間の１０～２０％は実施できた）
○　０％（ほぼすべての学生もしくは全体の実習期間のほぼすべてが実施できなかった）
○　わからない

2020（令和２）年度の在学生全体では、昨年度1年間に本来実施すべき学外の実習をどの程度実施できましたか。（n=531）



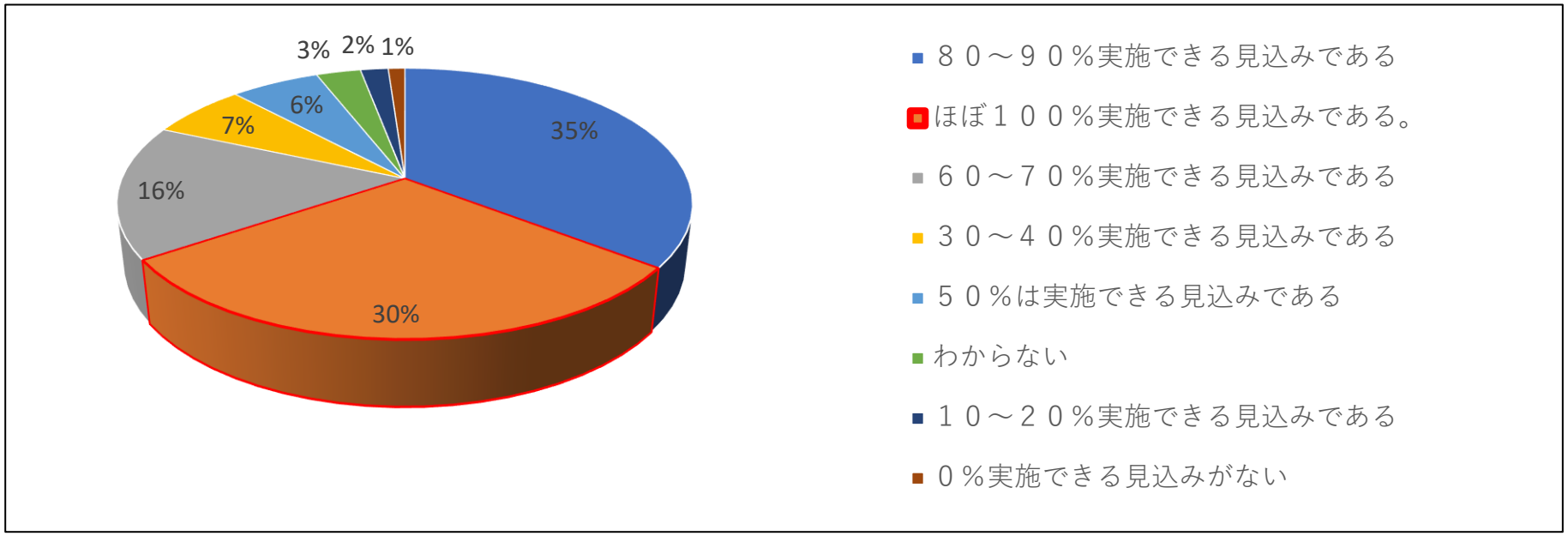
○　ほぼ１００％実施できた。
○　８０～９０％実施できた（学生の８０～９０％もしくは全体の実習期間の８０～９０％は実施できた）
○　６０～７０％実施できた（学生の６０～７０％もしくは全体の実習期間の６０～７０％は実施できた）
○　５０％は実施できた（学生の５０％もしくは全体の実習期間の５０％は実施できた）
○　３０～４０％実施できた（学生の３０～４０％もしくは全体の実習期間の３０～４０％は実施できた）
○　１０～２０％実施できた（学生の１０～２０％もしくは全体の実習期間の１０～２０％は実施できた）
○　０％（ほぼすべての学生もしくは全体の実習期間のほぼすべてが実施できなかった）
○　わからない

2021（令和３）年度の最終学年の学生では、本年度1年間に本来実施すべき学外の実習をどの程度実施できる予定ですか（あくまで現時点での見込みでお答えください）。（n=534）



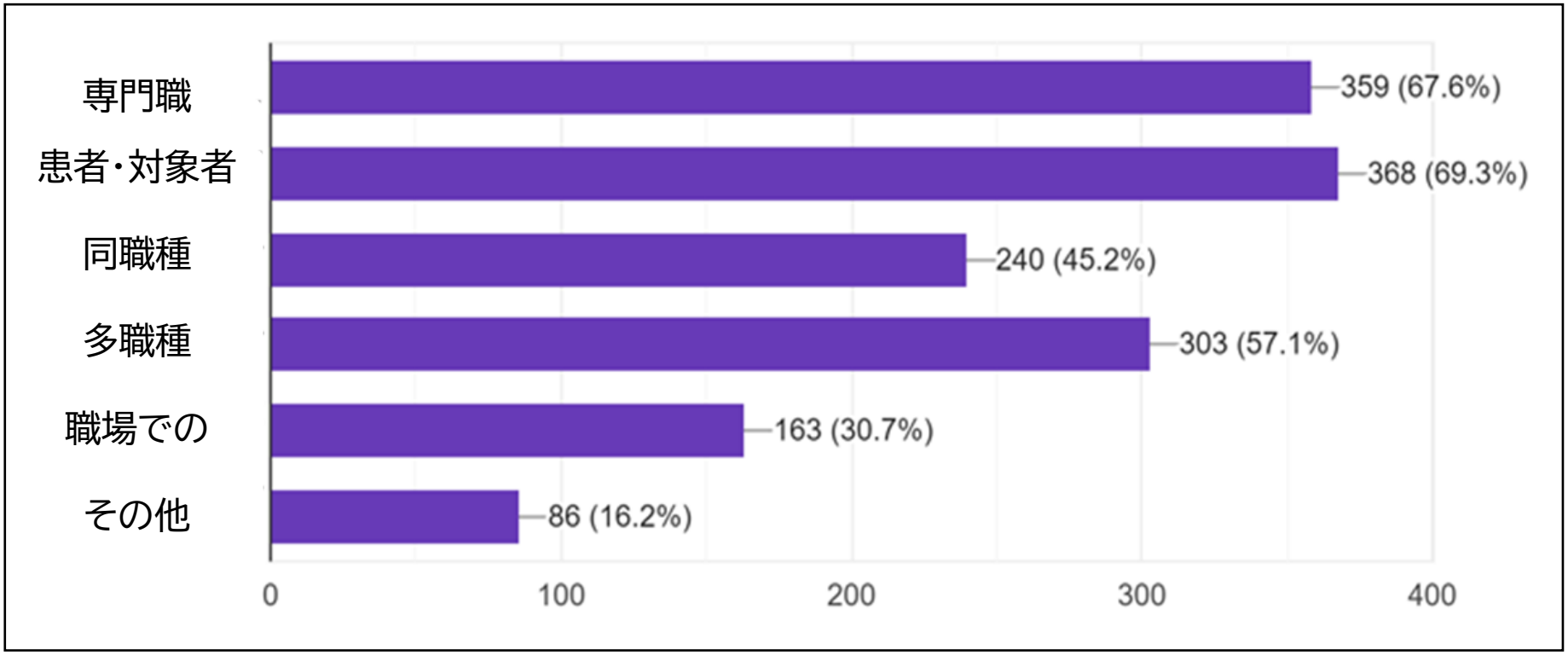
- ○ ほぼ１００％実施できる見込みである。
- ○ ８０～９０％実施できる見込みである（学生の８０～９０％もしくは全体の実習期間の８０～９０％は実施できる見込みである）
- ○ ６０～７０％実施できる見込みである（学生の６０～７０％もしくは全体の実習期間の６０～７０％は実施できる見込みである）
- ○ ５０％は実施できる見込みである（学生の５０％もしくは全体の実習期間の５０％は実施できる見込みである）
- ○ ３０～４０％実施できる見込みである（学生の３０～４０％もしくは全体の実習期間の３０～４０％は実施できる見込みである）
- ○ １０～２０％実施できる見込みである（学生の１０～２０％もしくは全体の実習期間の１０～２０％は実施できる見込みである）
- ○ ０％実施できる見込みがない（ほぼすべての学生もしくは全体の実習期間のほぼすべてが実施できる見込みがない）
- ○ わからない

2021（令和３）年度の在学生全体では、本年度1年間に本来実施すべき学外の実習をどの程度実施できる予定ですか（あくまで現時点での見込みでお答えください）。（n=537）



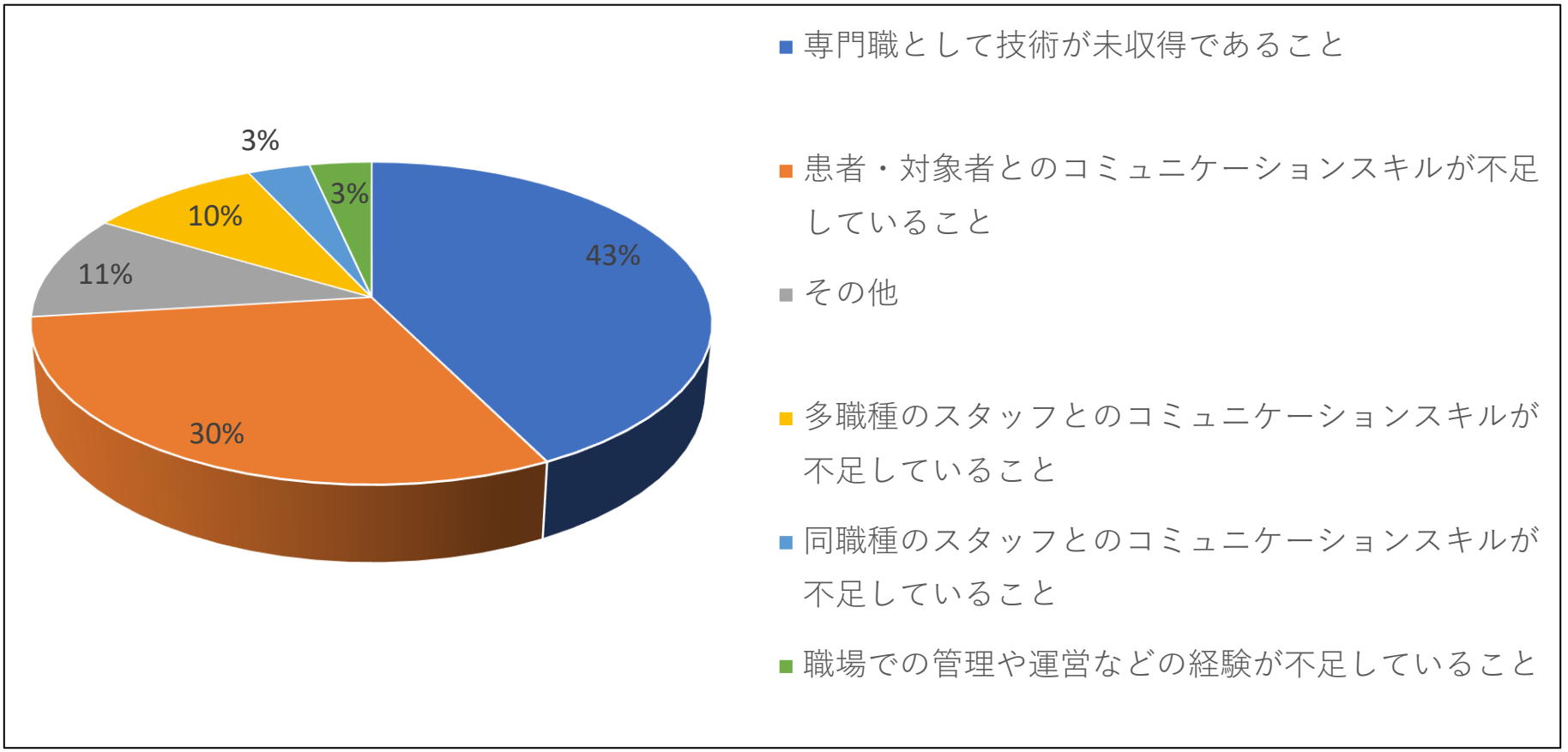
- ○ ほぼ１００％実施できる見込みである。
- ○ ８０～９０％実施できる見込みである（学生の８０～９０％もしくは全体の実習期間の８０～９０％は実施できる見込みである）
- ○ ６０～７０％実施できる見込みである（学生の６０～７０％もしくは全体の実習期間の６０～７０％は実施できる見込みである）
- ○ ５０％は実施できる見込みである（学生の５０％もしくは全体の実習期間の５０％は実施できる見込みである）
- ○ ３０～４０％実施できる見込みである（学生の３０～４０％もしくは全体の実習期間の３０～４０％は実施できる見込みである）
- ○ １０～２０％実施できる見込みである（学生の１０～２０％もしくは全体の実習期間の１０～２０％は実施できる見込みである）
- ○ ０％実施できる見込みがない（ほぼすべての学生もしくは全体の実習期間のほぼすべてが実施できる見込みがない）
- ○ わからない

2020年度（今年3月）の卒業生は、程度の差はあるかもしれませんがCOVID-19の影響で学外実習等に影響があったと思います。卒業にあたって、教員から見たときにどのようなことが懸念されましたか（複数回答可）。（n=531）

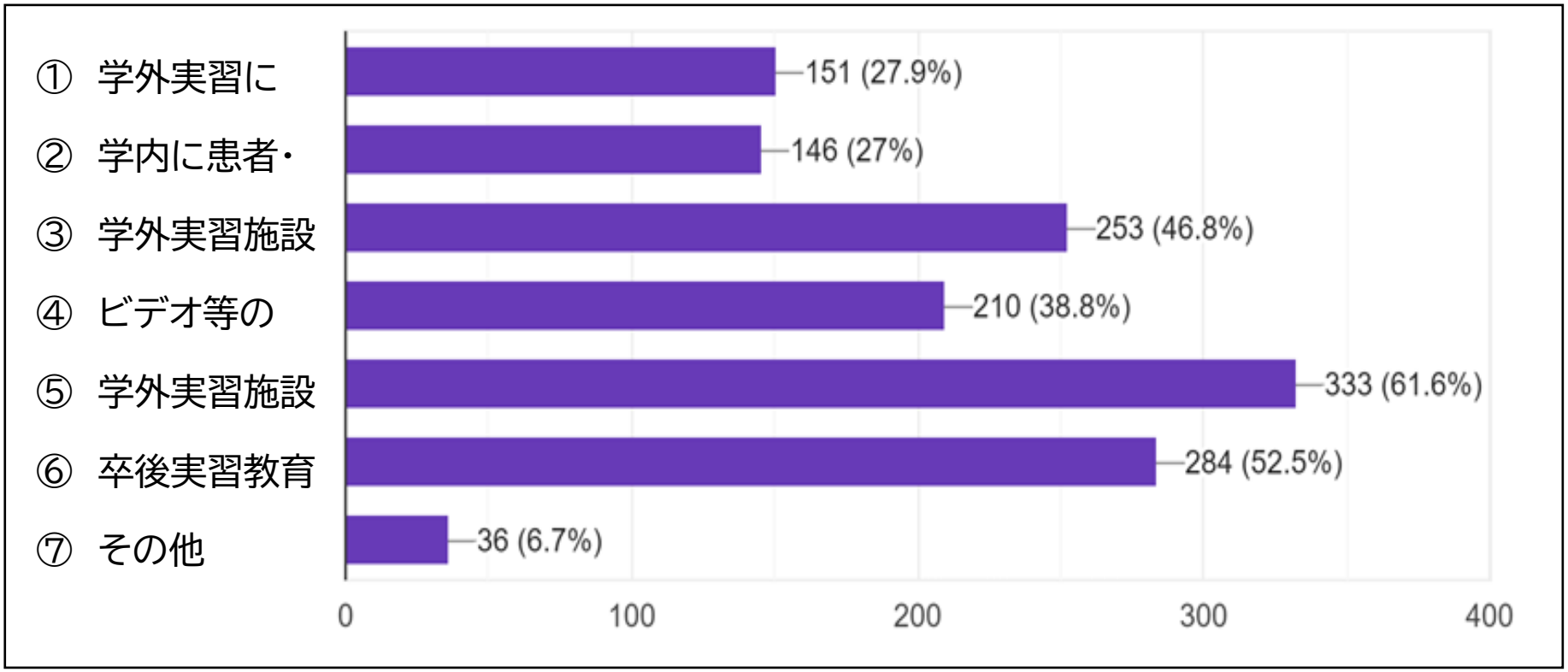


- 専門職として技術が未収得であること
- 患者・対象者とのコミュニケーションスキルが不足していること
- 同職種のスタッフとのコミュニケーションスキルが不足していること
- 多職種のスタッフとのコミュニケーションスキルが不足していること
- 職場での管理や運営などの経験が不足していること
- その他（その他を選択した方は、次の問に具体的にお書きください）

2020年度（今年3月）の卒業生は、程度の差はあるかもしれませんがCOVID-19の影響で学外実習等に影響があったと思います。卒業にあたって、教員から見たときにどのようなことが懸念されましたか。選択肢のうち一番懸念されるものは何ですか。（n=523）

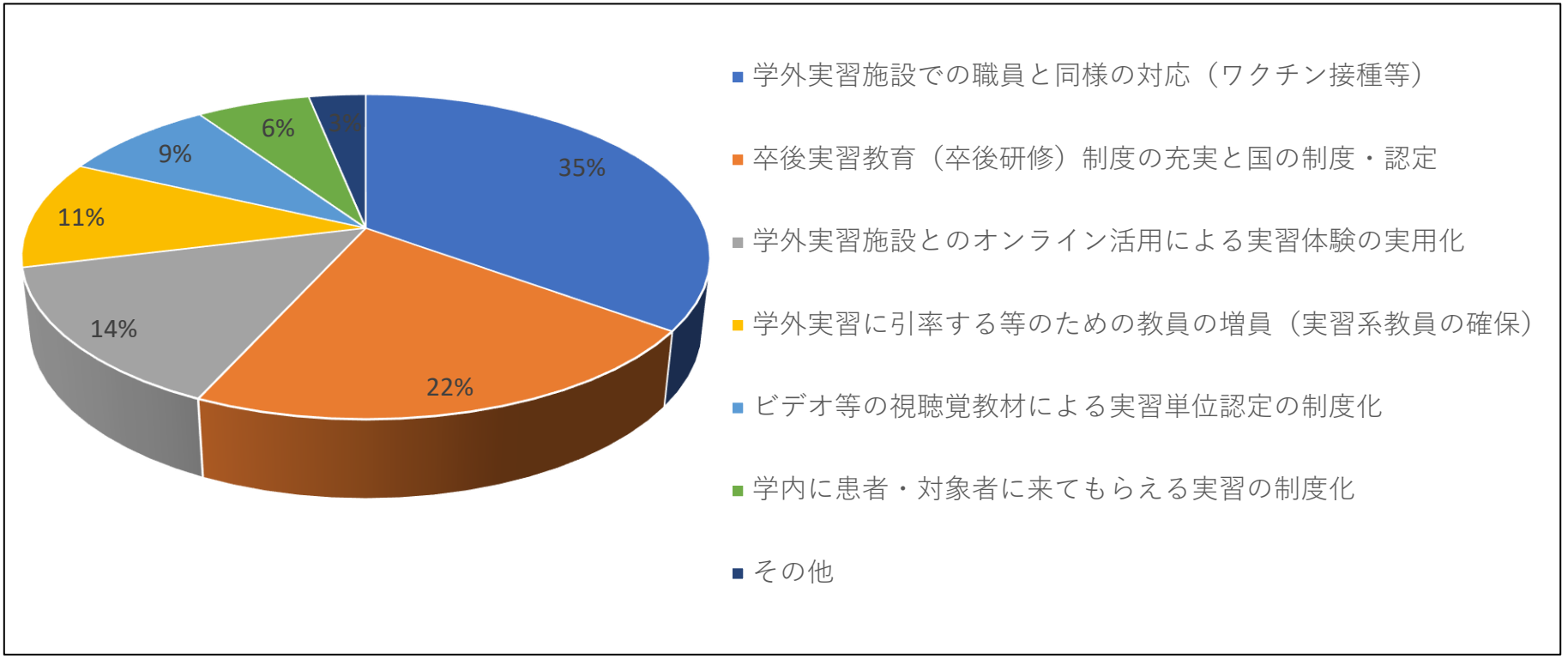


今後、学外実習を円滑に実施するために必要な対応は何だと考えますか（複数回答可）。（n=541）

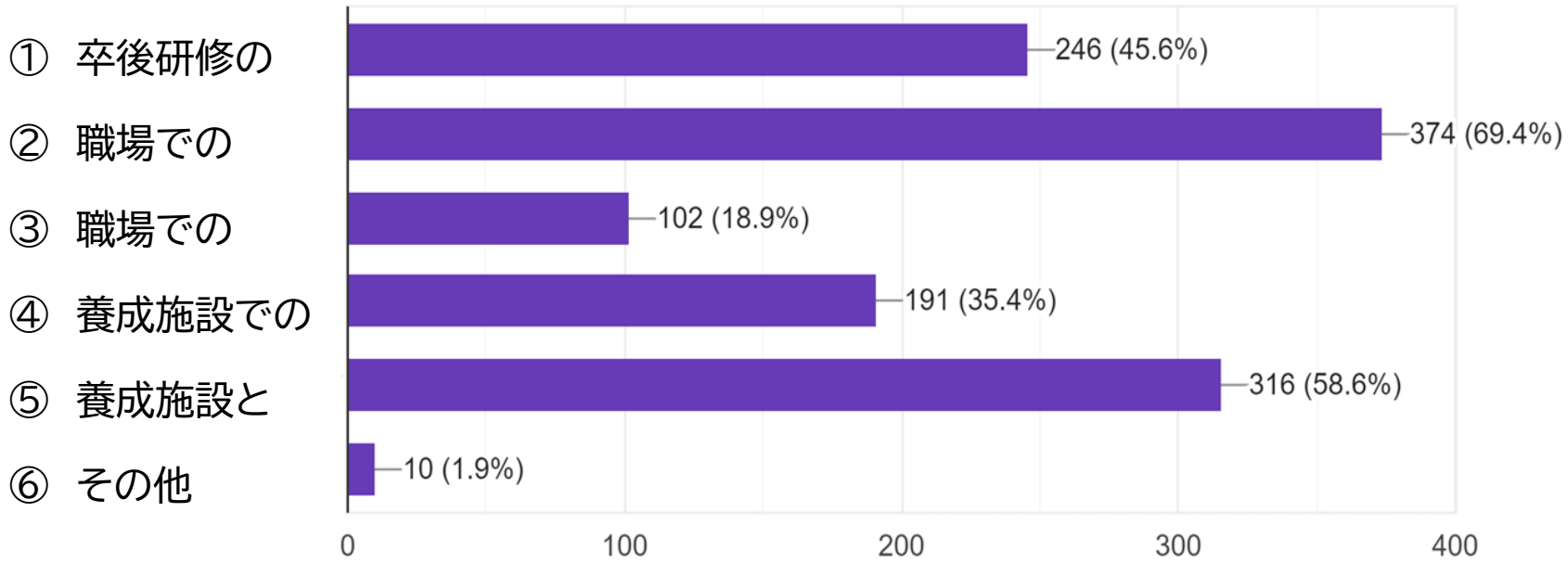


① 学外実習に引率する等のための教員の増員（実習系教員の確保）
② 学内に患者・対象者に来てもらえる実習の制度化
③ 学外実習施設とのオンライン活用による実習体験の実用化
④ ビデオ等の視聴覚教材による実習単位認定の制度化
⑤ 学外実習施設での職員と同様の対応（ワクチン接種等）
⑥ 卒後実習教育（卒後研修）制度の充実と国の制度・認定
⑦ その他（その他を選択した方は、次の問に具体的にお書きください）

今後、学外実習を円滑に実施するためには、選択肢のうち何が一番必要な対応は何だと考えますか。

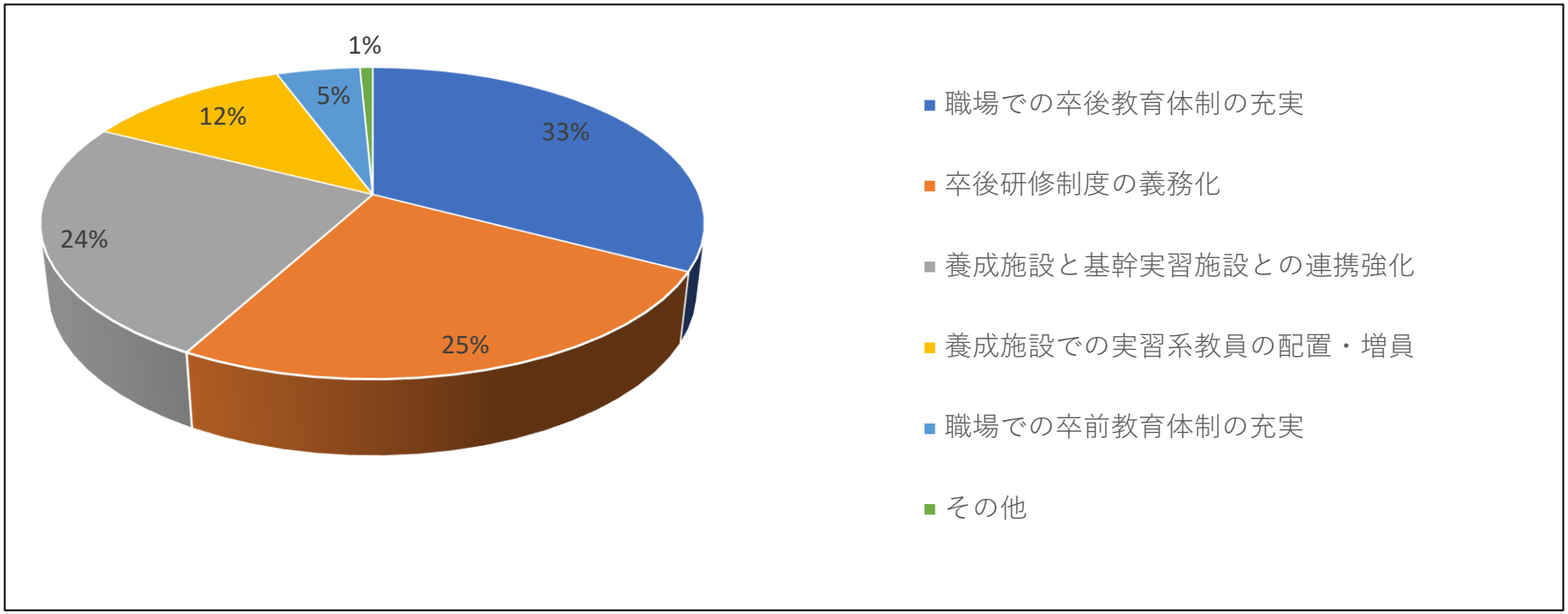


養成施設の教育課程で学外・学内の実習の充実は継続的に努力する一方、その他に養成教育が卒後の現場と連携していくうえで必要と考えるものは何ですか（複数回答可）。(n=539)

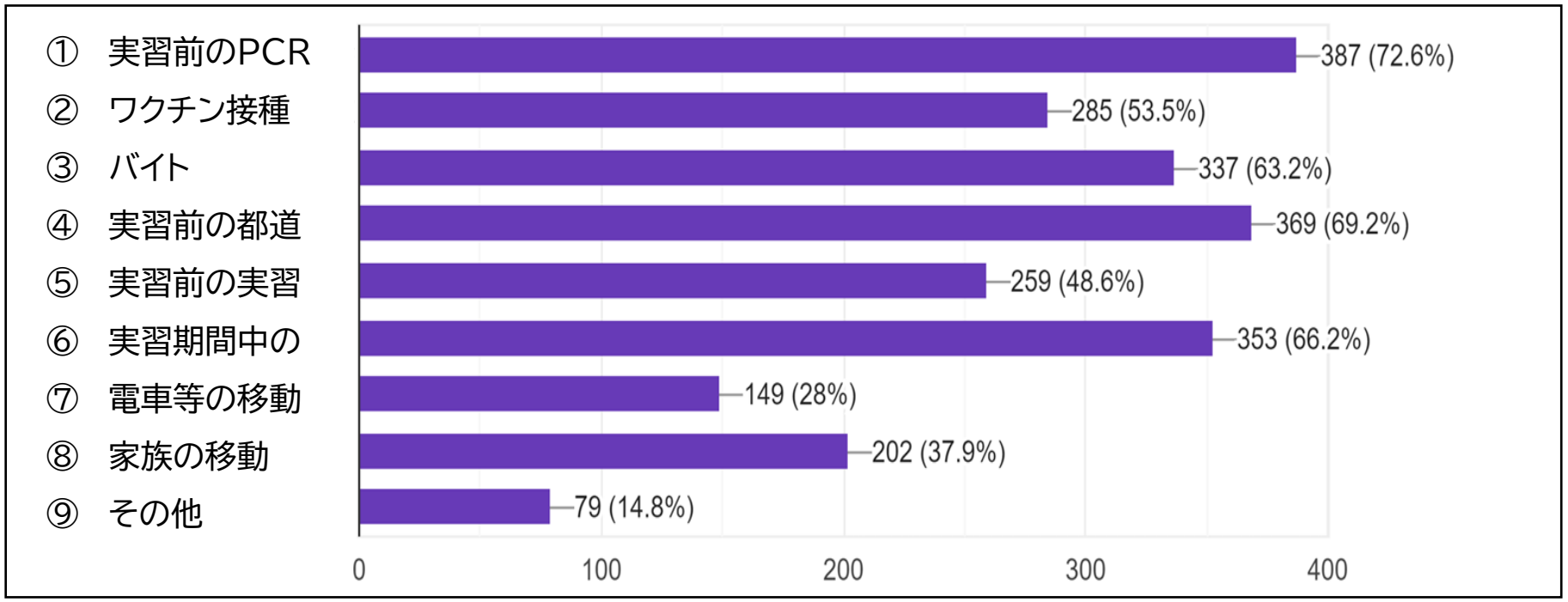


① 卒後研修制度の義務化
② 職場での卒後教育体制の充実
③ 職場での卒前教育体制の充実
④ 養成施設での実習系教員の配置・増員
⑤ 養成施設と基幹実習施設との連携強化
⑥ その他（その他を選択した方は、次の問に具体的にお書きください）

養成施設の教育課程で学外・学内の実習の充実は継続的に努力する一方、その他に養成教育が卒後の現場と連携していくうえで必要と考えるものは何ですか。前々の選択肢のうち一番必要と考えるものは何ですか。（n=537）

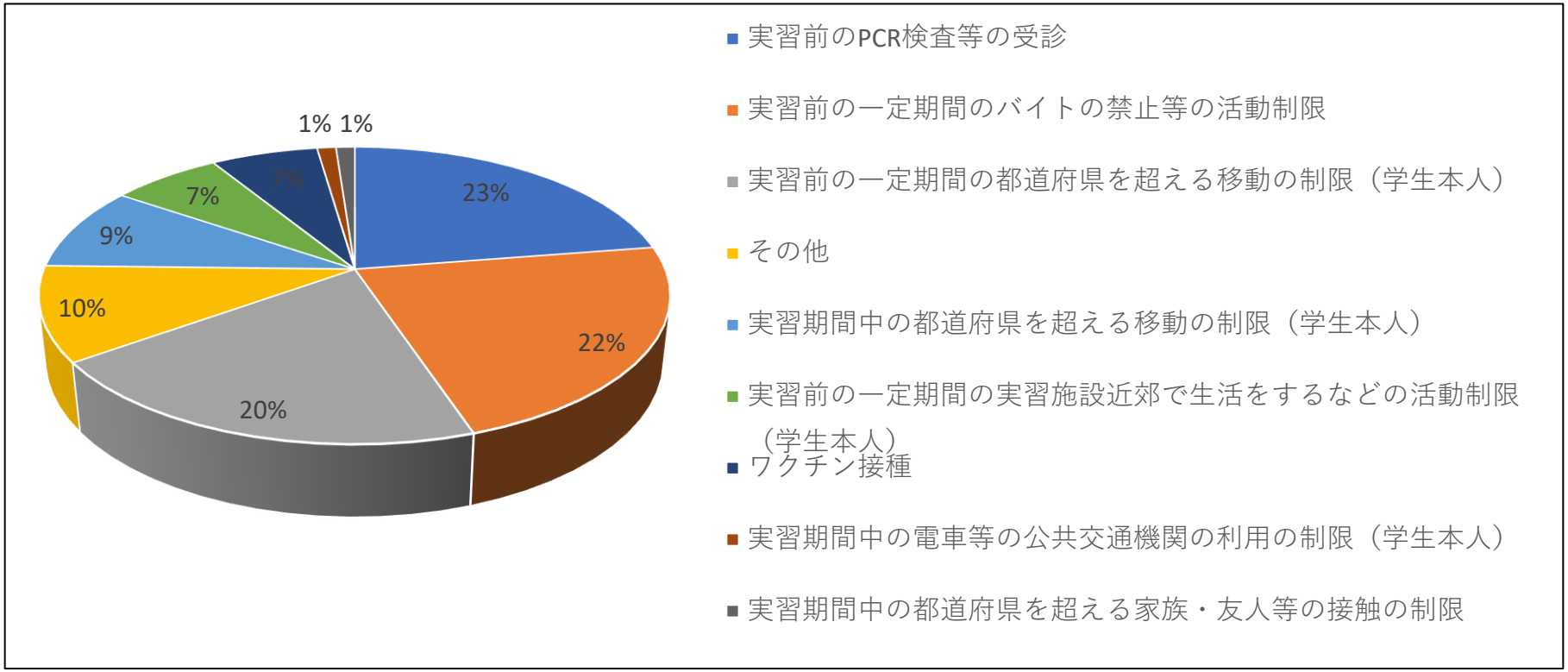


昨年度から今年度で、学外実習施設から実習の受け入れの要望としたあったものはどれですか（複数回答可）。（n=533）



① 実習前のPCR検査等の受診
② ワクチン接種
③ 実習前の一定期間のバイトの禁止等の活動制限
④ 実習前の一定期間の都道府県を超える移動の制限（学生本人）
⑤ 実習前の一定期間の実習施設近郊で生活をするなどの活動制限（学生本人）
⑥ 実習期間中の都道府県を超える移動の制限（学生本人）
⑦ 実習期間中の電車等の公共交通機関の利用の制限（学生本人）
⑧ 実習期間中の都道府県を超える家族・友人等の接触の制限
⑨ その他（その他を選択した方は、次の問に具体的にお書きください）

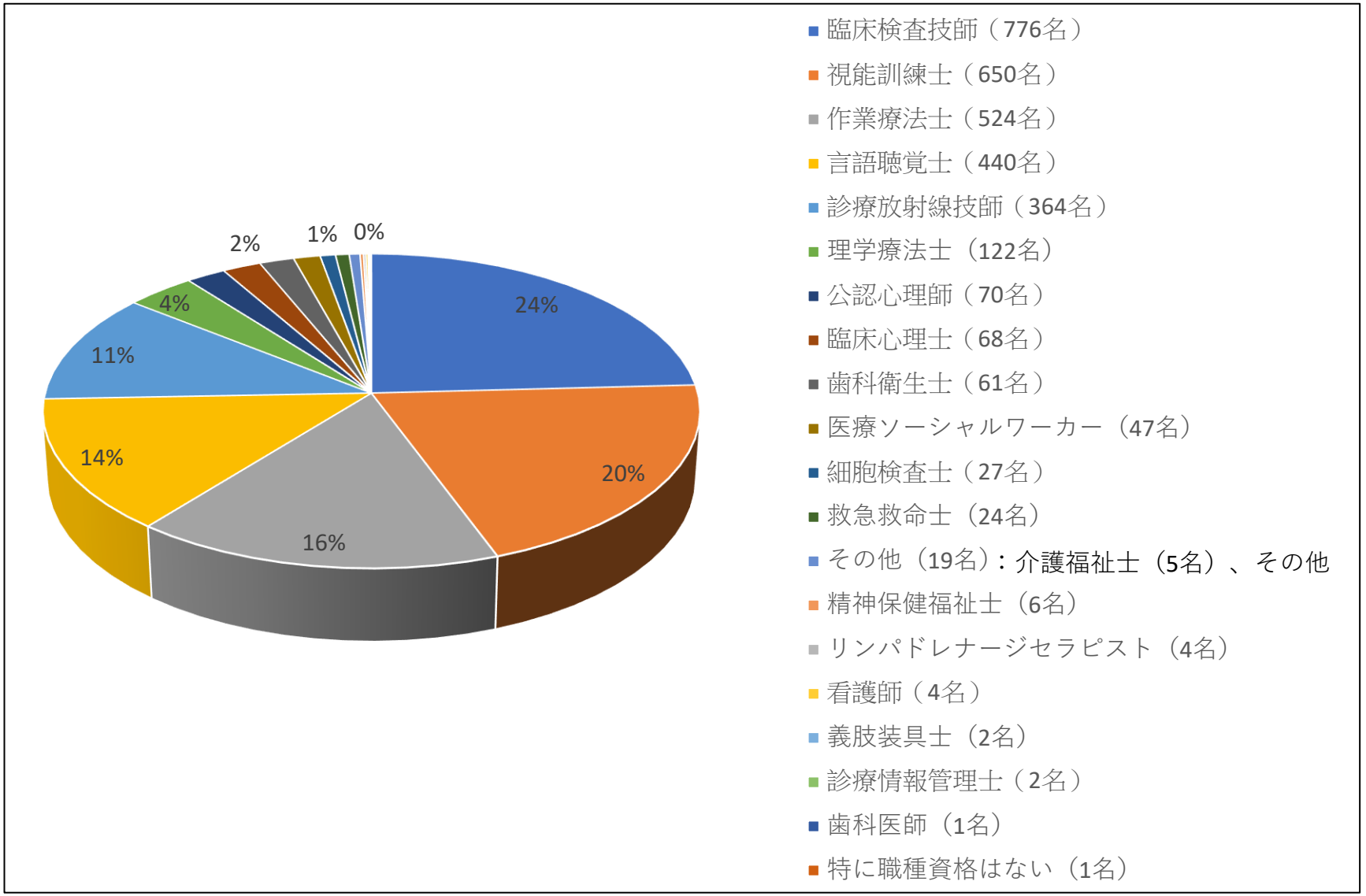
昨年度から今年度で、学外実習施設から実習の受け入れの要望としたあったもので、一番多かったものはどれですか。（n=524）



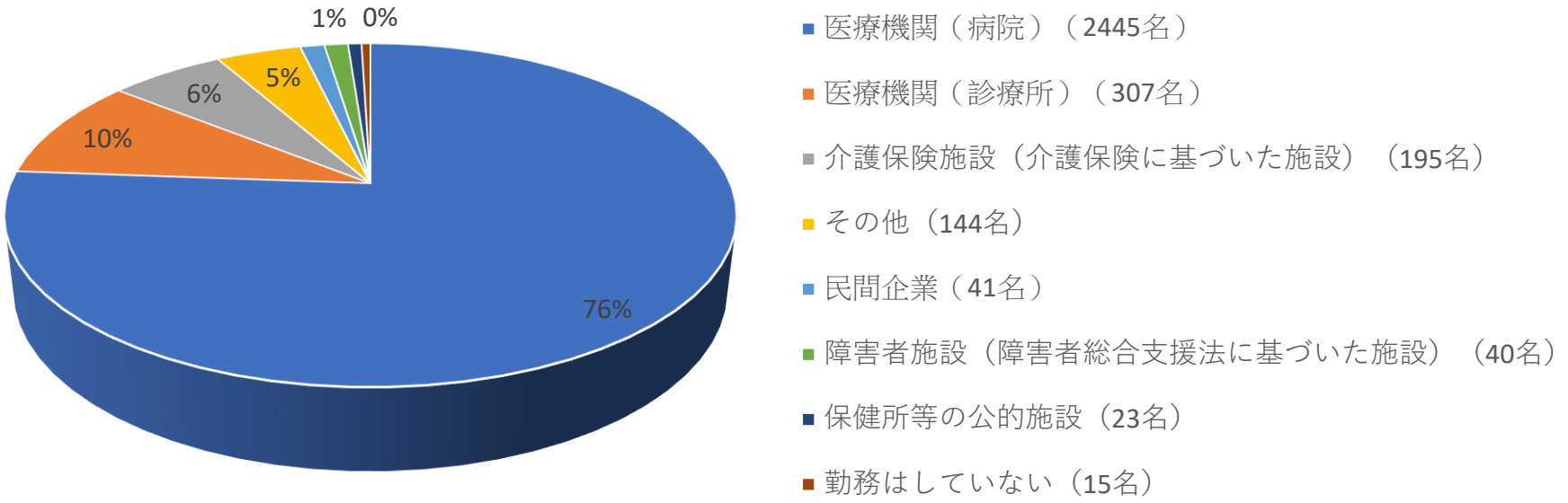
「個人」に対する調査結果から　（抜粋）

全回答数は、3,234件であった。

職種をお答えください。複数資格をお持ちの方は、主に業務としている職種でお答えください。（n=3212）

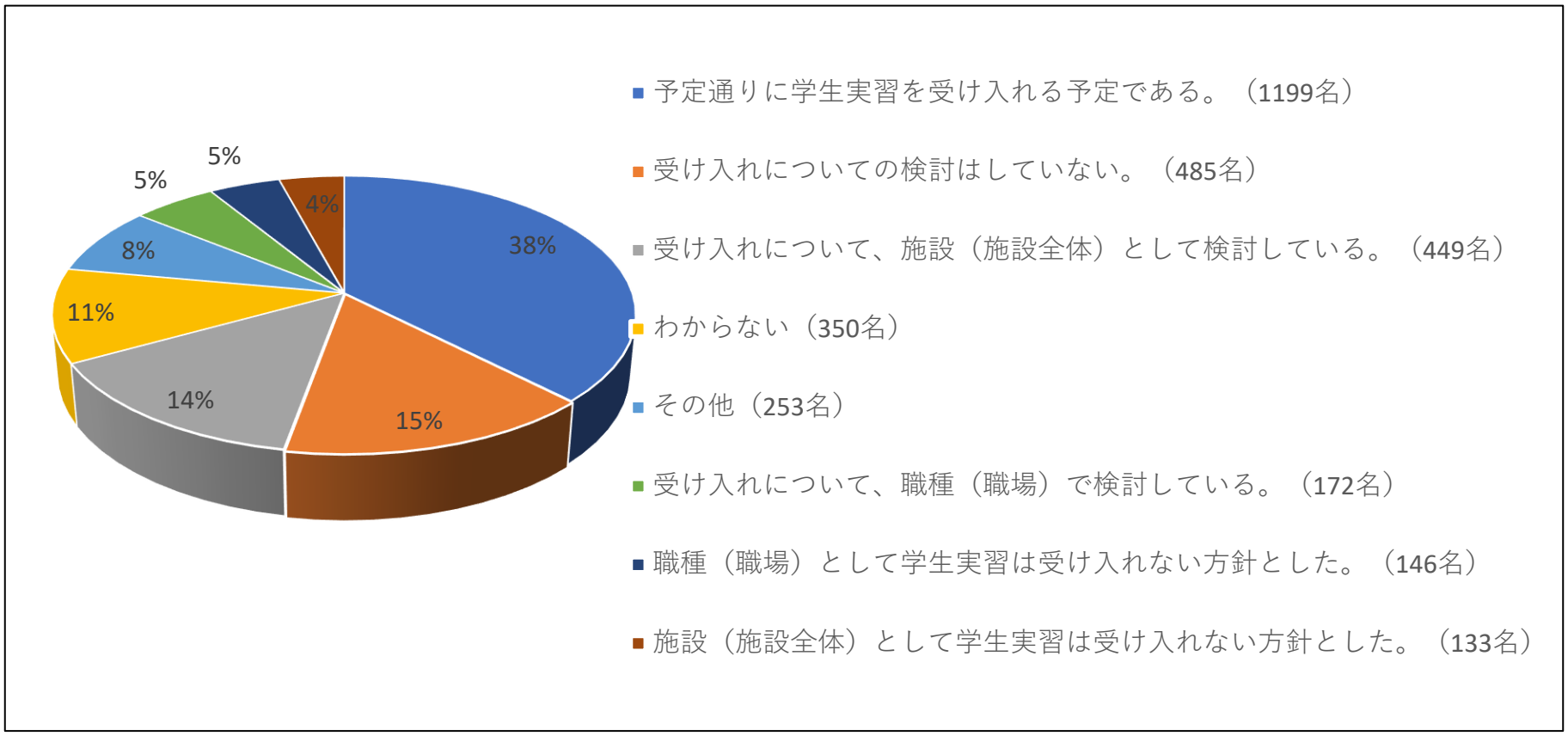


あなたの勤務先（主たる勤務先）の施設にあてはまるものをお答えください。（n=3210）

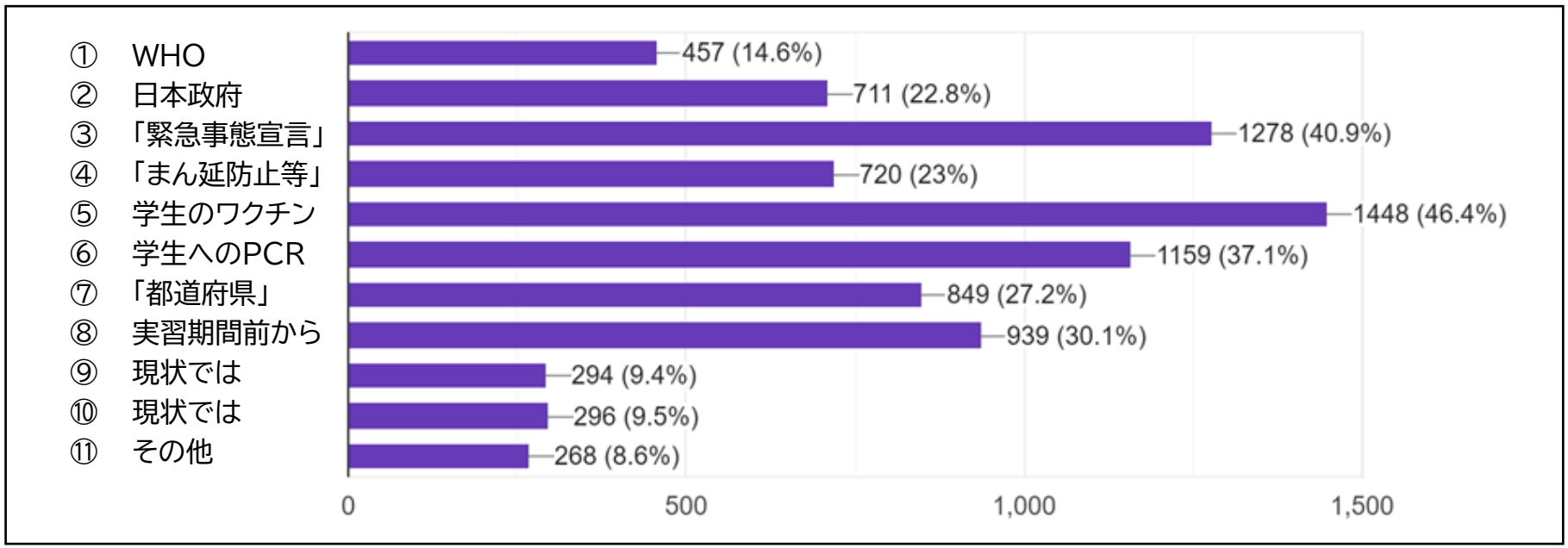


○ その他には、「養成施設」「障害者総合支援法に基づいた以外の施設」「小学校等」「消防」などがあった。

今年度のあなたの職種の学生実習の受け入れの状況をは、現時点ではどのようになっていますか。（n=3187）

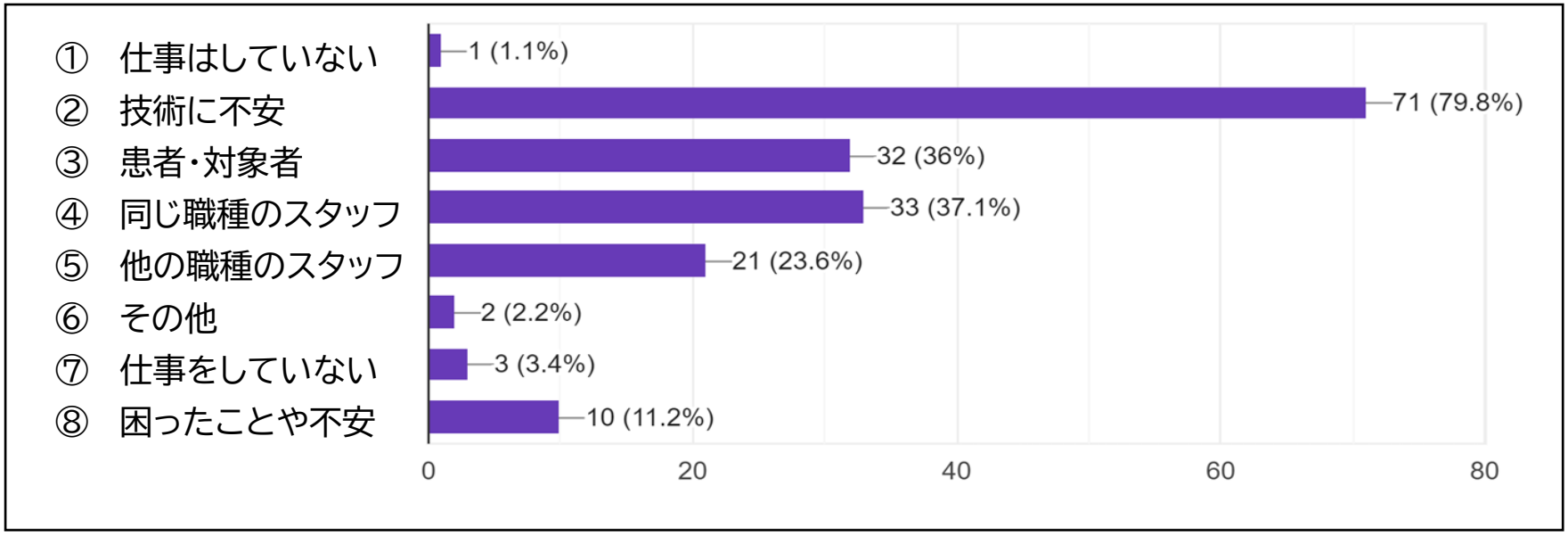


今年度の学生実習の受け入れについて、どのような状況であれば受け入れが可能と考えますか（複数回答可）。（n=3124）



① WHOのCOVID-19の感染に対する収束宣言
② 日本政府のCOVID-19の感染に対する収束宣言
③ 「緊急事態宣言」が出ていないこと
④ 「まん延防止等重点措置」が講じられていないこと
⑤ 学生のワクチン接種が終了していること
⑥ 学生へのPCR検査等が実施できていること
⑦ 「都道府県」を超えた実習施設への移動（通学）がないこと
⑧ 実習期間前から一定期間は実習施設周辺で過ごし、「都道府県」を超える往来をしないこと
⑨ 現状では、どのような状況があっても学生実習は受け入れられない。
⑩ 現状では、どのような状況であっても感染防止対策等を実施して学生実習を受け入れる。
⑪ その他

【1年目の方】
この4月から職場で困っていることは何ですか（複数回答可）。（n=89名）



① 仕事はしていないのでわからない。

② 専門職としての技術的に不安があった。

③ 専門職としての患者・対象者との人間関係が不安だった。

④ 同じ職種のスタッフとの人間関係に不安があった。

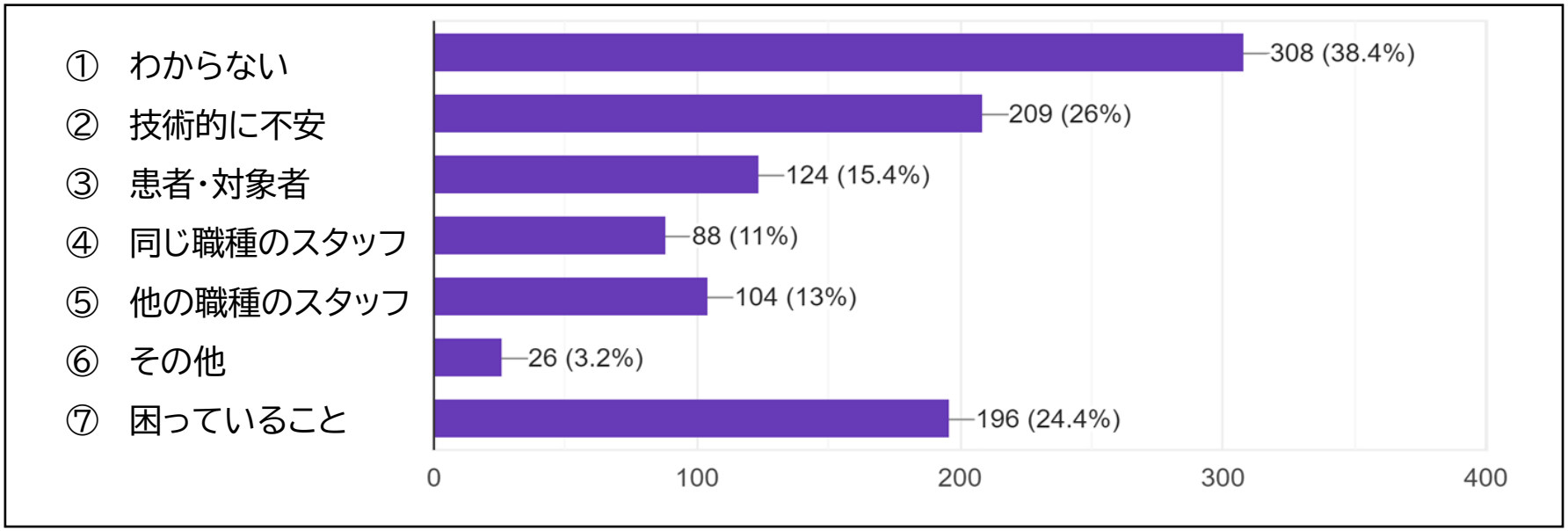
⑤ 他の職種のスタッフとの人間関係に不安があった。

⑥ その他（その他を選択した方は、次の問に具体的にお書きください）

⑦ 仕事をしているがわからない

⑧ 困ったことや不安なことはない

【2年目から10年目の方】
養成施設卒業・修了1年目の入職者の職場での様子はいかがですか（複数回答可）。（n=803）



① 職場に養成施設卒業・修了1年目がいないのでわからない。

② 専門職としての技術的に不安である。

③ 専門職としての患者・対象者との人間関係が不安である。

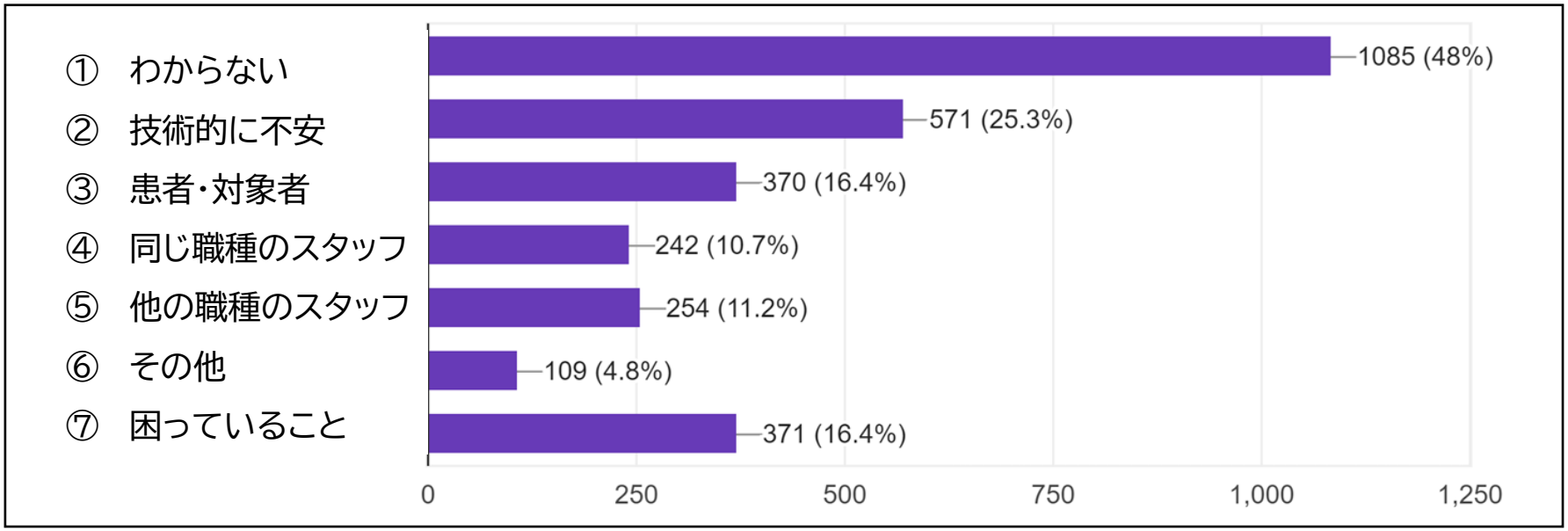
④ 同じ職種のスタッフとの人間関係に不安である。

⑤ 他の職種のスタッフとの人間関係に不安である。

⑥ その他（その他を選択した方は、次の問に具体的にお書きください）

⑦ 困っていること・不安なことはない。

【11年目以上の方】
養成施設卒業・修了1年目の入職者の職場での様子はいかがですか（複数回答可）。（n=2,260）



① 職場に養成施設卒業・修了1年目がいないのでわからない。

② 専門職としての技術的に不安である。

③ 専門職としての患者・対象者との人間関係が不安である。

④ 同じ職種のスタッフとの人間関係に不安である。

⑤ 他の職種のスタッフとの人間関係に不安である。

⑥ その他（その他を選択した方は、次の問に具体的にお書きください）

⑦ 困っていること・不安なことはない。